

細江カトリック教会だより 5月号

〒750-0016 下関市細江町 1-9-15

☎083-222-2294 ☎083-222-0970

広島教区テーマ；平和の使徒となろう

チャレンジ 新しい福音宣教 ～わたしをお使いください～

—家庭へのチャレンジ—

WYD：世界最大の祈りと交流の式典

WYD (World Youth Dayーワールド・ユース・デー)大会は、国連が1985年を「世界青年の年」と定めたことを受け、キリスト教のトップであるローマ教皇ヨハネ・パウロ二世が、世界の青年たちにローマへと集うように呼びかけたことに始まります。その後、2～3年ごとに世界各地でWYDの世界大会が開催されることになり、今日WYDは世界で最も大きな青年の集まりとなりました。

は、170か国から200万人(日本からは450人)、2013年にブラジルのリオデジャネイロでは300万人もの青年が集まりました。青年だけでなく多くの司教、神父、シスター、修道者、若い教師や大学教授などもWYDに参加します。マドリッド大会では、800名の司教、14,000名の神父、数千人のシスターや修道者が参加しました。WYD大会はミサや祈りを通してイエスと出会う場であるとともに、全世界に広まるカトリック教会の大きさを物語る大規模な世界的イベントでもあります。若者の教会離れを懸念しているこの時代だからこそ、各大陸から集まり祈りの時間をともに過ごす何万人もの若者の姿を見ると、教会の将来が希望に満ちているように感じます。



＊2008年シドニーWYDでの日本巡礼団による文化交流プログラム

一週間続くこの大会は、青年たちが世界中から集ってひとつになり、出会いを喜ぶ祭典であるとともに、青年たちの巡礼の旅とも言われています。その内容は、教皇様を囲んでの祈り、聖書の勉強会、お互いの人生の楽しみや苦しみの分かち合い、ときに静かに祈って自分の心を清め神の恵みをいただくことです。それから、WYDは世界の175以上の国や地域の文化、音楽、踊りなど、さまざまな文化交流を楽しむ機会でもあります。

WYDが行われる国の地理的条件や開催時期によって、毎回の参加者の数は違いますが、2011年にスペインのマドリッドで行われた時

前教皇ベネディクト十六世はWYDの大切さを強調しながら次のようなメッセージを残しています「友人の皆様、世界青年大会に参加するよう、再度お願いします。わたしは、深い喜びをもって皆様一人ひとりをお待ちします。イエス・キリストは教会を通して皆様が信仰をしっかりと守るよう望んでおられます。イエス・キリストを信じ、従うよう決断することは容易ではありません。自らの過ちやより安易な道に誘う多くの声によって、その決断は妨げられます。希望を失わないでください。むしろ、キリスト教共同体の支え、教会の支えを求めてください。若者の皆様、教会は皆様を必要としています。その生き生きとした信仰、創意あふれる愛、そして希

望の力が必要なのです。皆様がいることで、教会は一新されて若返り、新しい力を得ます。したがって、ワールドユースデーは皆様だけでなく、神の民すべてのための恵みです。」

第26回「世界青年の日」教皇メッセージより



★教皇フランシスコ 2013年WYD リオ大会

WYD はカトリック教会のイベントですが、参加資格は自由で、宗教や国籍を超えて世界の各国から人が集まる素晴らしい文化交流の機会となっています。このようにWYDを通して文化や大陸を超えての新しい出会いや仲間づくりを楽しみにしている若者の数は驚くべきペースで増え続けています。また教会と社会にとってのWYDは、若者に目を向け、将来を担う若者に信頼と希望をおくことの大切さを確認するきっかけになっています。

次回のWYDは2016年7月26日(火)から7月31日(日)までポーランドのクラクフで行われます。ポーランドはカトリックの伝統を誇る国であり、そのなかでもクラクフという町は聖ヨハネ・パウロ二世の出身地として知られています。本大会のテーマは「憐れみ深い人々は、幸いである、その人たちは憐れみを受ける。」(マタイ5:7)という聖書の言葉です。この大会は世界各国からおよそ200万人以上の若者が教皇フランシスコを囲んで集まり、祈りと交流を持って祝うこととなります。日本からもできるだけ多くの若者が参加でき、同じ信仰を持つ他国の若者との出会いを通して自分たちの信仰を深めるように、祈りやその他の援助などを通して支えていただきたいと思います。

ジェームス・ボニー 神父

新任紹介

今年度、副代表をすることになりました、林妙子です。そのような器ではないのですが皆さんと共に、教会共同体の船出に2年間、ご一緒させていただきます。宜しくお願いします。

年間の行事が決まり、そのように計画しても、思いどおりにならないことが多くあると思いますが、流れのままに、なにもしないのではなく、前向きに考えて、流れとともに生きる。それは目をそらさず直視して、神のみ旨はどこにと考え、迷いながら、行動して、神に導きを得たいと思います。

教会信徒の方も今まで活躍されていた方達が、神のもとへたくさん逝かれました。淋しいかぎりですが、これからを担う若い人の力をかりて、新しい掟である「互いに愛し合う」ことに努めたいと思います。



林 妙子

労働教育センター改修竣工祝別式 4/10



★イエズス会日本管区長梶山神父による祝別式が行われた。



★玄関入口には、センターの理念をシンボライズされた十字架が。

カトリック障害者連絡協議会（山口）

委員長交代（典礼委員）

～共に集う生き生き典礼～



* Sr.山本の歌と講話

4月16日、細江教会で開催された、カ障連（山口）総会に参加しました。50名近い集まりは、実り多いものでした。遠方からの方々、準備された方々、皆様の御苦勞の甲斐あって、和やかで楽しい会となりました。特に、シスター山本の、澄んだ歌声を挟み込んだ講話は、「ともにある」ことを語りかけられて、心打たれました。

おそらく現在の障害者人口は350万人を超えていると思います。実に全人口の3%。ノーマリゼーション（障害のある方もない方も、隔離せず、混じり合って社会生活するのが正常）という言葉がポピュラーになってから久しいのですが、町で行き交う人の、さあ、何%が障害のある方でしょう。重篤な方は外へ出られないかも知れませんが、目に見えない障害もあるので一概には言えないとしても。下関駅の人工地盤で、遠回りしないと利用できないエレベーター（おいおい、誰のため？）を見るにつけ、日本は後進国だな、という気がします。超高齢化に邁進する我が国の、障害者人口の増加はアクセルいっぱいなのに、現状が付いていけないかも・・・と、日頃思わなくもありません。

故に、教会が困難にある方々のただ中にいるということ、それを知ることは、深いお恵みです。何より私たちは全員、潜在的な障害者ですから。

神の国は、目に見えるものとして来るのではない。また、人々が「見なさい、ここにある」とか、「あそこにある」とか言えるものでもない。神の国は、実にあなたがたの間にあるのだから。

（ルカ 17-20 参照）

稲垣 優美子

新年度より典礼全般について担当することとなりました。力不足は重々承知の上でお引き受け致しましたが、まだまだ自覚が足りず少々うろたえております。今後ゆっくり時間をかけて各分野の方々とコミュニケーションをはかり、細江共同体のより一層の活性のために少しでもお手伝いできればと願っております。

この機会に、私自身が典礼に何を求め、どのように臨んでいるか改めて振り返りながら、主日のミサをはじめ、大祝日の典礼、通夜葬儀…を通してのあらゆる気づきに丁寧に向き合っていきたいと思っております。

いま私は、十字架上のイエスを仰ぎつつ、祈りのひとときに与る人生の豊かさをしみじみ感じております。喜びを分かち合う心や、苦しみの中から立ち上がる力、絶望の淵から這い上がる微かな光を、祈りの中から繰り返し頂いてきました。湧き出る祈りの力があってこそ典礼が息づき、お互いを支え合うことができるような気がしております。

キリスト者として細江教会に集う私たち一人ひとりが、沈黙から祈りへと導かれ、主の食卓を共にする喜びを実感することができますように。私たちの捧げる喜びも悲しみもすべて引き受けてくださる神に信頼してありのままを委ねることができますように。神への感謝と賛美を躍動感溢れる典礼として体現できますように。

20数年前、先日帰天された武安ヨシエさんがミサの中で拝領前に唱える『あなたをおいて誰のところへ行きましょう』が好き…と言われたことを思い出します。それを聞いて以来、毎回のミサで私もこの言葉をゆっくり噛みしめながら、迷わず進むべき道を再確認しております。私も典礼の中で唱えることばの一つひとつを大切に味わいながら、いつも私たちと共におられる神様との出会いのときを逃すことのないよう目覚めていたいと思っております。

塩谷 朋子

受洗者のメッセージ

コルカタのテレサ(マザー・テレサ)

加留部 裕子

3月26日(土)復活徹夜祭、あたたかな雰
囲気の中で受洗を迎えましたこと、とても嬉し
く皆さまには心よりお礼を申しあげます。

そして、今年も春がきました。でも今年の春
は一段と暖かく、その時が来たと感じた春で
した。

「その時」とは、人それぞれ生きている生活
の中での感じ方、とらえ方は違いますが、そ
の時を迎える間にどう生きて行くのかのプロ
セスが大事だなと改めて実感した日々でした。
もう時間が無いと思う気持ちより、まだ時間が
有ると思う気持ちに切り替え、前向きに考え
過ごすことの大切さを、聖書による神さまの話
と社会経験の重なりとで、気づき実践してきた
ことの一つです。

今後も、その時その時の出会いや気づきを
大切にできるよう、皆さまと共に進みつづけて
いきたいと思っています。

2016年 春



お願い!

《熊本地震》支援

熊本を中心とする地域では、亡くなられた
方々も49名にのぼり、また多くの方々が避
難生活を強いられています。余震も続き、不
安な毎日をお過ごしている多くの人々に心を
とめ、お祈りと募金をお願いします。

*福岡司教区から

福岡中央銀行(平尾支店)

口座番号;普通 1076206

口座名義;カトリック福岡司教区

送金者の名前の後に

「クマモトジシンシエンキン」と入力して
ください。

*カリタスジャパンから

郵便振替 00170-5-95979

加入者;宗教学法人カトリック中央協議会
カリタスジャパン

通信欄に「熊本地震」と明記

**ご案内****第三回認知症講座**

～気になる人を街で見かけたら～
(…よきサマリア人になるために…)

日時;5月15日(日)13:30

場所;細江カトリック教会 ホール

13:00～ 受付

13:30～ 介護体操予防

13:45～ 「どうして徘徊が起こ
るのでしょう」

14:25～ 声かけ体験

主催;下関ブロック福祉を考える

「てとてとて」



*皆さまの参加をお待ちしています。

編集後記

・地震の経験が少なく、今回の熊本地震
で、下関では震度4でしたが慌てまし
た。急いで防災対策をと「非常持出袋」
を準備し、寝室に靴を置いて寝ていま
す。少しでも何かが揺れると身構えて
しまう私ですが、余震が続く現地の
方々の不安はいかばかりでしょ
うか・・・思いをはせて。

・カトリックセンターのロビーに藤本幸
枝さんの詩集『ありがとう』の冊子を
置いています。

心温かくなる詩がいっぱいです。(K)

